

## さど 佐渡島宣言

### 「トキと共生する佐渡の里山」から始まる 新・生物多様性農業」

野生絶滅したトキの野生復帰を進めた、日本の縮図とされる「佐渡島」に参集し、第6回生物の多様性を育む農業国際会議(ICEBA2023)を開催した。

「地球沸騰化」とまで言われた本年、世界的気候変動を実感し、生物多様性の損失への対策は、ますます重要性を増している。

ICEBA2018において掲げた5つの目標を着実に実現していくため、本会議では、生物の多様性を育む農業に軸を置きながら、脱炭素との両立や農業を次世代に継承していくための食と農と環境の教育を含めた「新 生物多様性農業」について議論し、確認してきた。

#### 【宣言】

私たちは、生物の多様性を育む農業の重要性を再確認するとともに、以下のとおり宣言する。

1. 地域資源の活用や環境再生型農業などを取り入れつつ、資源循環を促進し、廃棄物や汚染を減らす食料システムを定着させるべく、脱炭素にも資する新しい地域再生農業を推進する。
2. 安全安心な農産物の供給を次世代に継承していくためには、子どもの頃から幅広い視点で里山全体の循環の大切さを学ぶ機会を作ることが大切であり、田んぼと里山と生物多様性のつながりを伝える環境学習を推進する。
3. 生物の多様性を育む農業の推進にあたり、有機農業への取組を含めて、農業の現場を人と生きものが共生する場ととらえた里山の重要性を農家のみならず、消費者を含めたすべての人へ発信する。

以上、3つを宣言すると共に、今後開催される国際会議等の機会に国内外へ波及する取組を進める。

2023年11月19日

第6回 生物の多様性を育む農業国際会議

新潟県佐渡市長 渡辺 竜 五